

令和5年度 学校評価

(1) 自己評価結果等

<p>前年度の 重点目標</p>	<p>「あたたかい学校づくり」～自己有用感を育てる～ ○多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と職員による、健康で安全・安心な学校づくりを進める。 ○個々の特性の丁寧な把握と、社会で幸せに生きるための力を育む、個別最適で協働的な学びを促進する。 ○教職員が新しいことに挑戦でき、やりがいを感じて仕事ができる風通しのよい職場の醸成と、連携や協働による業務のスリム化を図る。</p>		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>小学部</p>	<p>児童一人一人が生き生きと学ぶことができる教育活動や教育環境づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の人権に配慮した授業実践を図る。 ・児童の支援及び指導の方法を検討するためのケース会を設定する。 ・児童が安全に安心して活動できる学習環境や教室環境の改善及び工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の人権や発達段階、生活年齢に留意した指導・支援を常に意識して実践できた。高い人権意識をもって指導・支援が継続できるように随時、研修等を実施していく。 ・指導方法や支援の仕方など学年で共通理解を図ることができるように、学年会やケース会を積極的に設定し課題解決に努めることができた。今後も児童一人一人の教育的ニーズに対してチームで取り組める仕組みを作っていく。 ・学年及び部内でヒヤリハット事例の情報共有と対策を検討する意識が高まり、児童が安全に安心して学習できる環境づくりができた。今後は事故等の未然防止の観点から安全対策が徹底できるようにする。
<p>中学部</p>	<p>生徒が、安心して意欲的に学べるよう、学習環境を整え、自己有用感が高まる指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権を尊重した指導を行う。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を用いて職員間の情報共有を行い、個別最適な学びにつなげる。 ・職員同士が連携し、協力し合える関係を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心情に寄り添った言葉掛けや、生徒の思いに寄り添った活動を意識した。 ・学年主任等を中心に、生徒の個々の目標を確認し合いながら授業を進めた。今後さらに、情報共有を徹底できるとよい。 ・学年を越えて職員間で声を掛け合って協力することができた。今後、職員の働き方が多様化する中で、さらに連携を深められるとよい。
<p>高等部</p>	<p>卒業後の生活及び進路を見据えた上で、社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度、さらには生きる力の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性や人権を尊重し、尊厳を守った指導を心掛ける。 ・挨拶及び場面に応じた態度、実態に応じた話し方などのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・生きる力を育むための3つの資質を育てることを意識した授業を行う。 ・産業現場等における実習、就労体験実習、校内実習、作業学習、商業科専門科目などの職業教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重し、尊厳を守った指導を意識し、取り組んできた。どこまで生徒が取り組み、どこから教師が支援するかについて、より共通認識を深められるようにしていく。 ・場面に応じた態度、話し方など、コミュニケーション能力の向上がみられた。これまで自粛してきた学年間、スタディ間を越えた交流をどのように設定していくかが課題。 ・学年を中心に情報共有を行い、生きる力を育むための3つの資質について意識して指導できた。 ・実習等を通して、卒業学年は就労に向けた具体的な準備をし、課題も明確にすることができた。1、2年生は卒業後の生活をイメージすることができた。
<p>訪問教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態を丁寧に把握し、教職員間で共通理解を図る。 ・個々の特性に合わせた授業作りを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問教育会議で児童生徒の情報交換を丁寧に行っていく。 ・校内及び外部機関との連携を密に取りながら進めていく。 ・教職員間で目標や児童生徒の様子を常に共有し、授業に反映できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問会議では、児童生徒の実態、学習や家庭の様子などをしっかりと時間を取って丁寧に報告し合い共通理解を図ることができた。家庭からの要望や質問には、その都度意見を出し合い検討した。今後も家庭からの要望や質問に全体で対応していけるようにしていきたい。 ・授業担当者で授業内容を話し合い、児童生徒の力を引き出せるように内容や教材を工夫するようになった。授業での反応、様子を情報交換し共有することで次の授業に活かして取り組むことができた。職員間で定期的に教材を紹介し合い授業の幅を広げるようにしていきたい。
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習活動が向上するように環境を整える。 ・職員が効率よく業務ができるように環境を整える。 ・職員駐車場が円滑に利用できるような環境を整え、利用方法を明確化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の備品・消耗品の定期点検を行い、整備をする。 ・職員の共用場所の消耗品の補充をこまめに行う。 ・職員の勤務時間に応じた駐車場の確保と、立て看板や柵の設置 ・行事や工事等に伴う駐車場の変更に関して、駐車場の確保と事前の連絡を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の備品等について、保管場所の調査を実施した。それにより過不足に対応したり、行事で円滑に貸し出ししたりすることができた。今後も学習活動に支障が出ないように環境を整えていきたい。 ・職員共用場所の印刷用紙に関しては、案内掲示をすることで、多くの目でチェックし補充することができた。特に年度当初は消費が早いので、注文と補充を確実にしたい。 ・通常と異なる勤務時間の職員数を把握したり、駐車場所変更の案内を職員が目にしやすい場所に掲示し、早めに連絡したりすることで、円滑に駐車場利用ができた。駐車場所や方法でわかりにくい箇所については、より丁寧に説明していきたい。

<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務に関するデータや書類を整理し、効率よく分掌の業務を進められるようにする。 ・児童生徒の資質・能力を引き出すための授業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なデータにすぐにアクセスできるように、ファイル名やフォルダ名にルールを設ける。また、削除やバックアップのルールを決めて定期的にメンテナンスをする。 ・夏季研修等を利用し、教材教具の発表の場を設け、教材教具をテーマに授業を振り返り、授業改善につなげる。 ・授業振り返り週間について、検証および検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの整理方法について検討、共有した。今年度のデータを整えることを目標にデータ整理に取り組んだ。 ・夏季全校研修では各教科等を合わせた指導や観点別評価について全校研修を行った。各教科等で育むことができる資質・能力を各単元で意識して取り組めるように、指導計画等の検討をしていきたい。 ・授業振り返り週間について検討し、これまでの取組に替えて、部を超えて授業を見合う期間を設けた。アンケートなどを活用して検証を行いたい。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体制の整備と周知を行う。 ・スクールバスの安全で円滑な運行を行う。 ・分掌業務の精選を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの改訂内容や重要項目について職員への周知を図る。 ・避難訓練等の実施と検証をする。 ・バスコースの時刻、運行経路が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・議題及び研修等の精選を行い、業務スリム化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して新転任者と希望者に防災マニュアルと、防災設備等を周知することができた。 ・反省で出た課題を反映し、より安全で素早い避難ができるように引き続き検討していく。 ・新車両導入に伴い、車両入れ替えとバスコースの変更等をR6年度に行う準備を整えることができた。座席調整等、児童生徒の希望がなるべく反映できるように調整していきたい。 ・分掌部会をタブレット端末上（ペーパーレス）で行うことで、スムーズに部会に移行することができた。案が通ったデータを校務PCに忘れずに戻すことが課題。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の推進を図る。 ・在宅就労の推進を図る。 ・進路指導に関わる情報提供の充実を図る。 ・進路先との連携を充実し、適切な進路開拓を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習、外部講師による講話、ICTを活用した学習を行う。 ・外部機関と連携したテレワークを取入れた実習や遠隔授業を行う。 ・職員や保護者に対して外部講師の講話を行う等、関係者に対して適切な情報提供を行う。 ・事業所訪問によって卒業生の定着を図ると共に、関係機関との信頼関係を構築し、情報収集すると共に生徒の進路選択につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習を例年通り実施した。福祉就労施設への校外学習も実施した。 ・在宅ワーク体験実習を企業と連携して行い、振り返り等の機会を利用して他校との情報交換も行った。 ・保護者向けの進路講話会、職員向けの講話を実施し、必要な情報提供の場を設けることができた。 ・事業所訪問を通じて、卒業生の現況確認や施設の状況等の情報収集を行うことができた。 ・次年度以降は業務内容の整理精選をしていきたい。
<p>研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の専門性や指導力が向上するように、校内における各研修や研究を整える。校外の研修を受けやすい環境を整える。 ・連携や協働による業務のスリム化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者が指導力を付けられるように初任者を指導する複数の教員で情報を共有し、研修内容や環境を整える。校内研修の充実を図ったり、校外研修の案内を積極的に発信したりして、各自が必要な研修を選択し、積極的に受講できるようにする。 ・各研修や各係の内容の精選、手順の整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修に関わる教員で情報共有する会を設定して、情報共有を図りながら、円滑に研修を進めることができた。今年度の反省を受けて、研修内容や時期について整理していく。校内研修については、実技研修の要望があるが講師を依頼することが難しく、課題が残った。校外で行われる実技研修の案内を充実させたい。 ・各係の仕事の分担や、グループウェアの活用、会議内容の精選を行い、業務のスリム化を図ることができた。来年度さらに工夫していきたい。
<p>図書・視聴覚部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習活動を向上させ、豊かな心を育てる図書環境作りをする。 ・視聴覚機器の効果的な利用のための環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書棚の有効活用、配架や見出しの整備・工夫をする。 ・図書館まつり等の企画や日常の啓発活動の中で、本に親しむ機会を提供し図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理と整備および利用しやすい環境作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて配架の変更や見出しの更新を行い、配架の目印になる工夫をすることができた。 ・絵本のキャラクターを活用して、楽しく参加できるような企画、掲示や展示を行った。 ・機器の配置や整備、更新を行い、紛失防止の工夫をしつつ視聴覚機器を利用しやすいように整備した。 ・図書本の入れ替えや、視聴覚機材の充実を図り、利用しやすい図書室になるよう努める。
<p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット事例を共通理解し、健康・安全面に対する職員の意識を高め、事故防止に努める。 ・児童生徒が緊急を要する状態になった場合、だれでも判断できる具体的な緊急対応票を作成し、周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で具体的な対策（環境整備、支援方法等）を早急に検討する。 ・事例の入力方法や締切日を年間で決め、職員に周知することで、報告の意識を高める。 ・保護者、児童生徒、学年職員にとってより安心で安全な緊急対応ができるように、個々の緊急対応票を再確認し、関係職員でシミュレーションすることで、流れや具体的な数値等に改善点がないか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討時に、対策を話し合うと同時に、ヒヤリハットが起こる前に必要な安全規則の順守、危険発見等の見直しをすることで、基本活動の啓発につながるようにする。 ・各部の学年会等の日程に合わせて年間で入力日を決めることにより、話し合いをしてから入力できるようになった。入力日の周知徹底をしていきたい。 ・変更や新規の緊急対応票作成では、話し合いを重ね、対応や流れ、記載方法などを検討して作成することができた。その他の児童生徒については、支援相談を活用し、内容の確認を担任に依頼していく。医療的ケアについては、指示書の更新を行うことで、緊急対応を見直す準備を整えた。 ・今後も個々に合わせた緊急対応の検討を重ね、様々な事例に対応できるように進めていきたい。

<p>自立活動部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の活用を目指す。 ・安全に温水プール指導を再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の新様式について、書き方や考え方、活用場面の参考となる資料を作成する。 ・自立活動部職員で個別の指導計画や個別の指導計画作成シートを確認し、課題点を共有する。 ・全職員向けの研修動画を作成したり、新転任者や温水プール指導経験の少ない職員向けに実技研修を行ったりして、温水プール指導における基本的な留意点について全職員で確認する。 ・他の分掌や校内全体で情報を共有して校内の体制を検討したり保護者と連携を図って児童生徒一人一人の配慮事項等について確認したりする。また、感染症に関する情報を収集し、適切な感染症対策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に対する校内アンケートでは、職員の81.5%から分かりやすかったとの回答が得られた。 ・自立活動部職員で個別の指導計画を点検した。分かりやすい書式への改善、認識の共有が課題である。 ・自立活動部職員が外部専門家による研修を受けて、全校研修と実技研修を行った。小グループでの細やかな研修を実施し、基本的な内容を共有できた。 ・校内全体で情報を共有して体制を整えたり個別の配慮事項を多くの職員で確認したりして、安全に実施できた。今年度の反省を受けて、よりよい実施方法の検討が課題である。
<p>教育情報部</p>	<p>校務支援システム導入の準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備内容を確認し、計画的に準備をする。 ・校務支援システム導入のメリットとデメリットを整理して、何を導入するかを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育情報部で児童生徒や教職員の登録を進め、教務部や保健部の職員で試行をし、その結果を情報化推進委員会で移行について審議をした。 ・システムの不具合や本校の実態に合っていない部分があったため、来年度からの導入を見送ることにした。 ・業務のスリム化を目指して、今後も、県教育委員会と連携して導入に向けた準備は継続していく。
<p>教育支援部</p>	<p>関係機関との関わりや相談に関する体制の強化を図り、円滑で有意義な地域支援活動を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する市町立学校、基幹相談支援センター、療育センター、訓練機関とのつながりを深め、適切な支援に繋げる。 ・相談記録の書式を活用し、学校職員及び児童生徒が前向きな気持ちになれる相談業務を行う。 ・支援の方法や技術について学ぶ機会を設け、指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の関係機関とのやりとりを密にすることで、よりよい支援の後押しとすることができた。居住地校交流では保護者向けの案内を作成したが、交流の進め方については、今年度の課題を確認し、改善していきたい。 ・相談用紙の項目に長所の欄を設けたことで、子どものよさを生かす支援と一緒に考えていける、和やかな相談の場にする事ができた。 ・分掌会議では、資料の情報共有を行い、そこから疑問点、質問を全員から聞く機会を設けることで、問題意識をもって考える機会となった。
<p>総合評価</p>	<p>授業に関するアンケート評価では、「個別の指導計画の十分な説明」「意欲や関心を引き出す授業」「分かりやすく、学習内容が身に付く授業」という項目で90%近い保護者から良好という評価をいただいた。意見の中に「先生が子ども一人一人を大切にしてくださっていることがよくわかり、とてもありがたかったです。」とあり、児童生徒一人一人の実態把握を丁寧に行うことで、意欲を引き出す学習の場が提供できていたのではないかと考えられる。「障害に応じた専門的な指導」という項目については、若干低めとなっている。専門家を招いた研修の場を設定し、職員の専門性を高める研修を充実させる必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症については、令和5年の5月から5類に変わり、対応を少しずつ見直し、9割の方から適切であるという回答をいただいた。一方、マスクの着用や行事等の方法について、いくつかの意見をいただいております。教育活動と安全の保障についてバランスを鑑み、専門家の指導を仰ぎながら対応していかねばならない。</p>		

(2) 学校関係者評価

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none">・多様性を認め合う高い人権意識をもった児童生徒と職員による、健康で安全・安心な学校づくり・個々の特性の丁寧な把握と、社会で幸せに生きるための力を育む、個別最適で協働的な学の促進・教職員が新しいことに挑戦でき、やりがいを感じて仕事ができる風通しのよい職場の醸成と、連携や協働による業務のスリム化・いじめの早期発見及び未然防止
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none">・全保護者を対象に「授業に関するアンケート」を、PTA役員を対象に「学校に関するアンケート」を実施した。どちらも大旨良好との評価を得た。また、各部、各校務分掌の評価でも、全てにおいて4段階の上から2番目の評価であった。・新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受けて、校内での学習、校外学習や行事等で児童生徒の実態に応じた内容で、体験的な学習を機会を増や増やすことができた。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none">・教職員の専門性の向上を図るため、外部講師を招いたり、校内研修の機会を設けたりして、研修の充実を図る。・発達段階に応じた指導内容の体系化、学習内容が身に付く授業の工夫を一層進め、スクール・ポリシーについて各部で実践を進める。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍を抜け学校として様々な活動を再開し、子どもたちが楽しそうに活動している様子が見られてよかった。・個性の高い授業を展開していた。卒業に向け、自己有用感を高めるような活動も設定されており、自分の進むべき道を準備している様子も伺えた。・文化祭では、先生方が教材を工夫していただき、児童生徒みんなに出番があり、よかった。・子どもが所属する部以外の授業を見学することができ、よかった。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none">・構成…学校評議員6名、PTA役員3名 評価時期…2月下旬